

令和元年度第1回小牧市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時	令和元年5月30日(木) 15時00分～17時00分
場 所	小牧市役所 本庁舎4階 402会議室
出席者	<p>【委員】(敬称略)</p> <p>岩満 賢次 岡山県立大学准教授 高木 康司 小牧市歯科医師会代表 櫻井 佐穂 公益社団法人 愛知県歯科衛生士会代表 吉元 寛子 小牧市介護支援専門員連絡協議会代表 田中 秀治 一般社団法人 愛知県社会福祉士会代表 沖本 榮作 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 坂東 抄子 小牧市介護相談員代表</p> <p>【事務局】</p> <p>山田 祥之 健康福祉部 部長 江口 幸全 健康福祉部 地域包括ケア推進課長 山本 格史 健康福祉部 長寿・障がい福祉課長 伊藤 京子 健康福祉部 介護保険課長 倉知 佐百合 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係長 永田 智奈未 健康福祉部 地域包括ケア推進課地域支援係主事 三嶋 直美 南部地域包括支援センターケアタウン小牧管理者 四宮 貴美子 小牧地域包括支援センターふれあい管理者 小林 永尚 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷管理者 瀬口 幸恵 篠岡地域包括支援センター小牧苑管理者 金田 泰丈 北里地域包括支援センターゆうあい管理者</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1 平成31年度小牧市地域包括支援センター運営方針 資料2-1 令和元(平成31)年度 小牧市地域包括支援センター事業計画書 一覧 資料2-2～2-6 各地域包括支援センターの事業計画書 資料3 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について 参考資料1 調査票②(センター業務状況) 参考資料2 調査票③(センター人員体制)</p>

主な内容

<p>1. 開会 (1) あいさつ</p> <p>2. 議事 (1) 令和元年度事業計画について 【I地域のニーズに応じて重点的に行うべき業務、II介護事業者、医療機関、民生委員・児童委員、ボランティア等の関係者とのネットワーク構築】 ・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。 ・最初に各地域包括支援センター管理者より、各包括の方針等の説明。 ・質疑、主な意見は以下のとおり。</p> <p>○高木委員</p>

- ・地域支え合い推進員や民生委員・児童委員等のネットワークの構築について、どの包括も会議を実施しているが、出席者の参加率はどのくらいで、関係会議として機能しているのか。一部の参加者だけになっていないか。

○事務局(篠岡)

- ・篠岡包括で行っている協働実践会議では、地域課題の解決やどのように地域資源の活用を図っていくかといったことを話し合う会議である。出席者は、介護事業者、医療機関、民生委員、ボランティアの各関係者で約20名の方に出席していただいております、一部の関係者に偏ることなく出席いただいております。

○高木委員

- ・関係会議は、出席される方が固定してしまい、本来、広げるべきところに広まらない傾向がある。そのような部分への働きかけの努力も難しいとは思いますが頑張ってください。
- ・会議の中には深く専門性を有するものもあるが、社会全体でという観点であれば、浅く広くで良いと思う。最近では、SNSと言ったツールもあるので、できるだけ幅広く参加していただけるような方法を模索してください。

○田中委員

- ・アウトリーチについて、味岡包括や篠岡包括が銀行やショッピングセンターで相談会を行っているが、実際には、場所のこともあり、あまり踏み込んだ内容の相談は難しいと思われるが、どのような状況なのかお聞きしたい。
- ・活動としては、素晴らしいが、相談人数が低迷しているのであれば、方法等を含めて考えなければならぬと思う。

○事務局(味岡包括)

- ・味岡包括は、大垣共立銀行において年金の支給日に合わせて出張相談を開催しており、相談件数としては、1件、2件程度である。
- ・銀行という場所ということもあり、その場で詳しい相談に対応するというよりも、自宅に訪問する日程の調整といったことが主になる。
- ・銀行での出張相談の一番の目的は、味岡地域包括支援センターの存在を知ってもらうことである。地域の方に知ってもらい、少しでも次の相談につながるよう取り組んでいる。

○事務局(篠岡包括)

- ・篠岡包括は、大型ショッピングセンターでの出張相談を月に2回、お店の特売日に行っている。既にサロンで顔見知りの方が寄ってくださったり、「このような情報が欲しい」といった内容のものが多く、深刻な相談というのはあまりない。
- ・介護保険の申請に繋がったり、自宅の訪問のお話まで進むケースも中には出てきているような状況である。

【Ⅲ介護予防に係るケアマネジメント、Ⅳ介護支援専門員に対する支援・指導】

- ・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○吉元委員

- ・介護支援専門員の資質向上を図るための支援及び課題の把握ということで、南部包括の書かれている「地域の主任介護支援専門員と連携を図るための交流の場を持つ」というのは、具体的には何が計画されているのか。

○事務局(南部包括)

- ・南部包括独自で行うのではなく、地域の主任ケアマネジャーと研修企画等をする機会を「連携を図るための交流の場」というような形にさせていただきたいと思っている。

○高木委員

- ・介護保険が始まって20年経ち、その当初から公的サービスだけでなくインフォーマルサービス等々を活用するというようなことが掲げられており、小牧市は資源マップなども早くから取り組んできていると思うが、インフォーマルサービスや地域で提供できるような資源というのは、増えている傾向にあるのか。

○事務局

- ・高齢者の方が集うふれあい・いきいきサロンについては、数が増えてきており、現在、市内に78カ所で展開されている。
- ・介護予防に関する取り組みについては、ふれあいセンターで行っている介護予防トレーニングなどが広がりを見せている。一覧表等でどの程度増えているかまでは、示せていないため、視覚的な資料作成等に努めていく。

○高木委員

- ・介護保険を利用する方が多くなると保険給付も増加し、それに伴い介護保険料も年々高く改定されている。介護保険の制度も改定されていき、要支援という区分ができたり、認知症についてより正確に介護度が判定できるような形に改善もされてきている。しかし、介護保険料は上がる、サービスは低下するという傾向にこれからもなっていくのではないかと思う。
- ・そのような中で、介護保険の横出しサービス等が市町村によって、様々な展開をしていたが、小牧市としては、現在、横出しサービスなどはどのような状況か。

○事務局(長寿・障がい福祉課)

- ・介護保険の横出しという形ではないかもしれないが、介護保険の保険料を使わない税金だけという形で展開しているものはある。
- ・今の介護保険制度では足りない、例えば高齢でひとり暮らしの方や高齢者のみ世帯の手が届かないようなところに市独自のサービスを提供している。
- ・今後も民生委員の方等から様々な意見を伺いながら、何が不足しているのか、どのようなものが必要か等検討し、サービスを充実させていくように考えていきたい。

○高木委員

- ・高齢者の中でも、情報を持っている方はプラスアルファのサービスを受けることができたり、ケアマネジャーによってはそういった情報を沢山持っている方とそうでない方がいたりする。
- ・高齢者のひとり暮らしの方だと情報を得る機会も少なく、インターネットを閲覧すればいいとは言うものの高齢者の方はそういったことも難しいと思う。市民全員に漏れなく均等にというのは難しいかもしれないが、できるだけひとり暮らしの方や高齢者の方など、情報を得る機会の少ない方にも知っていただけるような、広報活動やサービスの提供を心がけて欲しい。

○田中委員

- ・包括的・継続的ケアマネジメント支援の件数がかなり上がっており、それぞれの包括が担当者会議へ出向くなど、様々な接点を図るため取り組んでいる努力が素晴らしいと思う。
- ・そういった取り組みの結果上がってきた相談内容の中から、ケアマネジャーの課題や何に困っているのか、どのような支援をしたか、というようなことを整理していけると、傾向や対策を取っていけるのではないかと思う。そういった内容をケアマネジャーとも共有していただくとより良いと思う。

【V地域ケア会議、VI権利擁護事業】

- ・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。
- ・質疑、意見等なし。

【VII介護予防推進事業、VIII認知症総合支援事業】

- ・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。
- 吉元委員
 - ・認知症カフェは、基本的な対象者や目的があるのか。立ち上げたところの独自の考えで対象者や目的を持って運営していくのか、どういった動きで進めているのか。
- 事務局
 - ・認知症カフェについては、国でも統計をとっており、大きく3パターンに分かれる。
 - ・1つ目は事業所が行うもの。専門的な情報を提供したり、勉強会のようなものを行っていくようなスタイル。2つ目は、ふれあい・いきいきサロンのような居場所を目的としたもの。それから、3つ目は、今、各包括で行っている、家族交流会のような内容の認知症カフェである。
 - ・認知症カフェの運営については、居場所を目的としたものが多く、各運営主体が内容を個々で決めていき、その活動を支援していくような形で考えている。
- 田中委員
 - ・認知症初期集中支援チームについて、1年経つが、なかなか件数が上がらず、機能が見えてこない。各包括の意見として、工夫が必要なところや滞っていると思う部分があれば意見を伺いたい。
- 事務局(南部包括)
 - ・昨年の実績は、1件。認知症初期集中支援チームに関わってもらいたいケースはあるが、家族の同意や接点を取りにくいケースだったりする。家族の同意を得るところから認知症初期集中支援チームにも関わってもらいたいと思っている部分はある。
- 事務局(小牧包括)
 - ・昨年の実績は、5件。サービスに繋がったもの、医療機関に繋がったもの等あるが、南部包括でもあったように、最初に同意をいただくところがかかなり大きなハードルになっているようには思う。
 - ・他には、BPSD(周辺症状)が出て緊急性がある方は、認知症初期集中支援チームに繋げるには難しく、包括内での対応ということになる。
- 事務局(味岡包括)
 - ・件数としては、2、3件ぐらい。個人的に、認知症初期集中支援チームという相談できる相手があるという点では助かっている。
 - ・また、包括の中で対応できてしまっている部分も往々にしてある印象を受ける。また、病院受診につながらないというケース自体があまりないという印象もある。
- 事務局(篠岡包括)
 - ・実績は、今のところない。理由としては、緊急のときに動くことについて、物理的に遠くなかなか一緒に動きたいと思ったときに連絡して来ていただくというのが難しい。
 - ・今年度は認知症初期集中支援チームとぜひ連携をしたいと考えている。篠岡圏域は医療機関が少なく、物理的に受診に繋がらない、サービスの必要性を家族が認識していないということがある。そういったところを今年度は相談したいと考えている。
- 事務局(北里包括)
 - ・認知症初期集中支援チームに相談をし、うまく連携していったという印象を持っている。引き続き、認知症地域支援推進員が中心となって連携はしているが、受診拒否などといった案件に対して相談ができるところがあるのは重要なことだと思う。
 - ・包括だけでも解決できそうではあるが、相談した方が良いのかというところで、迷うようなケースは多々ある。
- 事務局

- ・事業を立ち上げて間もないというところもあるが、現状として、市の職員1名、社会福祉協議会の職員1名と医師会の先生1名の3人で対応している中で、実際にどのぐらいの動きがとれるのかというところが不明な部分があった。
- ・小牧市の場合は、地域包括支援センターを経由する形で認知症初期集中支援チームの方へ相談をしてもらう形態をとっており、件数としては10件ぐらいになっている。
- ・もう少し件数を上げていけないかと考えており、各包括とも協議する中で対応していきたいと考えている。

○高木委員

- ・介護予防事業が必要な人の把握ということで、各包括がサロンへ出向いていたりするが、介護予防が必要な人の把握というのは、もっと広域での把握をイメージしていたが、市として具体的に何をイメージしているのか。

○事務局(長寿・障がい福祉課)

- ・各包括の動きの他に、市としてアンケートを郵送し、介護予防が必要な方の把握をし、次の場所につなげるという介護予防把握事業を行っている。
- ・以前は、65歳以上の方全員を対象としていたが、今般では、比較的元気な方が多いことと、回収率が上がらないといった理由から対象者を絞り、65歳と75歳のひとり暮らしか、高齢者のみ世帯の方を対象に送って、把握をしている。

○高木委員

- ・昨年12月に、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に関する有識者会議の報告書が出ているが、この内容をみると、保健事業と介護予防事業では予算枠等が違ってくる部分もあるが、一体的に事業を実施していくべきというようなことだと思う。報告書が出てからあまり間もないが、何か市で検討していることはあるか。

○事務局

- ・国も健康づくりと介護予防を一体的に進めていくという指針を出している。本年度、健康福祉部内の各課でプロジェクトを組み、役割分担や効果的な実施方法について話し合っていく場を設けていきたいと考えている。

○高木委員

- ・刈谷市で、77歳以上の方を対象に口腔フレイルの健診事業が行われた。その対象になった方の半数に舌に機能異常がある、機能低下があるということや、6割の方に何らかのフレイルの状態があるという結果が出た。健診結果であるため実情に沿った数字だと思われる。
- ・この結果を見ると、対象を絞るといったことは、とても大事なことだと思う。年齢が上がれば上がるほどそのリスクやそういった対象になる可能性は高いが、本人も気づいていないケースが多々ある。様々なチェックをする機会を増やすことも一つだと思う。単独では難しいかもしれないが、イベントなどで複数支えながら実施すると良いのではないかなと思う。費用対効果や効率化を考えた時に、高齢者にターゲットを合わせるのがいいと思う。
- ・ひとり暮らしや高齢者など対象を選んだ上で、様々なイベントで複数のものを提供しつつ、何か一つチェックをかけるような形で事業の展開や施策を作っていただけると良いと思う。

○櫻井委員

- ・現場での経験上、交流の場に参加したがる人も必ず出てくる。積極的に体操教室に通っている方やサロンに行っている方がいる反面、ひとり暮らしで、高齢になると友達も少ないという方もいる。性格的な要因や、何らかの原因で人と距離を置きたいという方がいる。長年見ているとそういった、ひとり暮らしの方の方が早く亡くなられたり、介護が重度化する傾向があると思う。そのような方を包括は把握されているのか。

○事務局

- ・各包括が様々な地域の方の声を聞き、訪問する中で把握には努めている。全体として、明確な数字までは把握できていないが、そのような情報はキャッチする都度、対応に入れるような体制を取っていきたいと考えている。
- ・頑なに接触を拒否される方については、現実的に難しい部分があると思う。少しでも接点を取ってくれるようになった折には、受け入れる体制を整えていけるようにしていきたいと考えている。

○高木委員

- ・70代の認知症の割合を2025年に6%ぐらい減らすという方針が国から出された。具体的に6%減らすという数字が出されたが、予防の推進や発症年齢を遅らすといったことが、恐らく大綱に明記されると思われる。この数値を達成していくには、更に予防に力を入れていかなくてはならない。行政だけでやれることではないと思うが、何か行政として動き始めていることはあるのか。

○事務局

- ・予防については、今後更に力を入れていく必要があると感じている。
- ・現実的に認知症の方が実際どれぐらいいるのか実数が把握できていない部分もあり、まず一つには、認知症ステッカー事業等を行う中で、実態把握に努めていくことが課題である。もう一つは、地域の中でどれだけ継続的に予防活動に取り組んでいけるかというところが課題になる。具体案については、様々な関係機関とも協議しながら、引き続き検討していく必要があると考えている。

○高木委員

- ・認知症の専門医の方が小牧市にもいると思うので、早く対応を進めていただけるといいかと思う。

【IX 在宅医療・介護連携推進事業、X 地域包括支援センター独自の重点取組み事項】

- ・事務局より、資料1・資料2-1～2-6を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○沖本委員

- ・苦情の対応について、センターに対する苦情を受けた場合は、必要に応じて市に報告するとなっているが、そのような相談を受けることはあるのか。

○事務局

- ・実際は殆どない状態である。

(2) 事業評価の方法について

- ・事務局より、参考資料1、2を用いて説明。
- ・質疑、意見等なし。

3. 報告

(1) 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について

- ・事務局より、資料3を用いて報告。
- ・質疑、意見等なし。

4. 閉会